

第15回ベイタウンまつり (5月19日) ガイドマップ

時間は10:00～16:00 雨天順延です。
9:00以降は会場内への車の進入は禁止です。

イベントひろば

紙芝居 (かみしばい) 12:30～



「こどもさいくるリサイクル」は今年はありません。

イベントひろば

10:00～ ベイタウンまつり開会式
10:30～ 「M☆Splash!」(マリーンズ)
11:00～ 「ダンススケッチ」(キッズダンス)
11:30～ ゴールドジム・ダンス・スクール
12:00～ 「打瀬子どもルーム」(キッズダンス)
12:30～ 「わくわくおはなし会」(紙芝居)
13:30～ 「MAKUHARI・ミルキートワラーズ」
14:30～ 「M☆Splash!」(マリーンズ)
15:30～ 「モアニ ケアラ」(ハワイアン)
16:00 終了

スケジュールは4月30日現在の予定です。
予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

バーベキュー広場

ネットでの事前申し込み分
のみ。当日受付はありません。

フリーマーケット (プロムナード)

コロラド前～11番街前、バレンタイン通り
5、6番街前に172店が出店します。
出店される方は商品を8:50までに
搬入してください(奇数番は7:50～8:20、
偶数番は8:20～8:50)。

ベイタウンニュースからのお願い

第15回ベイタウンまつりのスナップ写真を募集しま
す。採用分は来月号のベイタウンニュースに掲載さ
せていただきます。お子さんやお友達との記念にど
うぞ。メールでベイタウンニュース松村
(mazmbtn@gmail.com)までお送りください。

模擬店

やきそば、カレー、
ポップコーン他30店

「盲導犬とふれあおう」

11番街プロムナード交差点角で開催
ベイタウン・コア入り口付近でやっています
防災グッズの展示と無料配布

「寺子屋工作ランド」

コアエ芸室 9:30から。内容は「紙トンボ」です。
参加費:50円(保険料)
もってくるもの:はさみ えんぴつ 木工ボンド

**フリーマーケット抽選会に400人がつ
めがける!** 関連記事は2ページに



ベイタウンまつり フリーマーケット抽選会

4月21日（土）、ベイタウン・コアではこの日、第15回ベイタウンまつりのフリーマーケット（フリマ）出店抽選会が行われた。フリマは第1回ベイタウンまつりからつづくメインイベントだ。第1回の頃は事務局は1人。電話で受け付けて100店ほどを先着順で決めていたが、回を重ねるごとに参加者は増え、今年はなんと定数160に対して442人も応募があった。実に2.76倍もの高倍率だ。

ベイタウンまつり事務局長を長年続ける小畑さんは毎年この時期フリマと模擬店の準備に忙殺される。しかし、昨年から得意のパソコンを使い受付や割り当てなどを自動的にできるようにしてきた。さらに今年からは参加希望者からの申し込みを受け付け番号を自動で発行できるように工夫したので、数年前までのように電話で受け付けに追われるということもなくなった。

だがそれにしても今年は特別だ。400人を超えるほどの人数になるとは考えていなかった。街の人口は昨年からそう大きな変化はないので、参加希望者もそう大差ないだろう。それなら今年も出店希望者にコア・ホールに集まってもらい抽選会を開いて決

めようと考えていた。だが400人にもなると一度で終わらせることはとても無理だ。子どもや友達連れで抽選会に来ると実際の人数は何人になるか分からない。急いで計画を組み立て直し、A、B区画ごとに先着順で受付をしてもらって、くじでその場で結果がわかるようにした。

実は小畑さんは大人数を集めてのイベントには慣れている。小畑さんは都内の高校で体育科の先生だった。何年もの間体育祭や文化祭などの学校行事で数百人を超えるような人の動線を考え、混乱なくイベントを進行させるノウハウを持っているのだ。さらに木工をはじめとする工作は玄人はだしだ。さっそく抽選会用の受付ボードや抽選結果の発表ボードをつくり、自治会を中心に16人ものボランティアに集まってもらい、21日の抽選会に臨んだ。

抽選会当日は4月下旬とは思えない肌寒い日となったが、午後1:00からの抽選会には公民館外の入口からプロムナードにかけて50mを超えるほどの行列ができた。館内でもアトリウムに人があふれるなど想定していたよりも混乱している。もっともこれは主催者側の見通しの甘さというより、

コア自体がこれほどの人が一挙に集まることを想定して建てられていなかったことによるものだ。見方を変えればコアは設計時の想定を上回る人気を保っているとも言える。

抽選会は午後3:30頃になってやっと当選者全員が確定し、出店場所が決まるという盛況ぶりだった。【松村守康】



子どもと一緒に抽選に望んだシータワーのMさん。小学校2年生のお子さんの引いた番号は見事大当たり。一緒に来た友達が残念ながら外れてしまったので、「当日は2家族一緒に出店します」

シーサイドデッキが開通

先月号でも既報のとおり、ベイタウンと幕張海浜公園の海岸地区を結ぶ歩道橋「シーサイドデッキ」が完成し、4月7日に渡り初めイベントが開催された。当日は、快晴のもと、千葉市長、美浜区長、千葉県企業庁長を始め、主催者である幕張ベイタウン自治会連合会および幕張ベイタウン商店会の関係者の皆さん、命名者4名、学校関係者、障害者・高齢者、そしてベイタウン住民や近隣の方々など、200名以上（一説には、300名とも）が集まり、「渡り初め」を行った。渡り初め後は商店会主催の音楽イベントやパフォーマンス、模擬店などが催され、参加者は思い思いに楽しん

だ。

デッキの総工費は約6億3千万円。千葉県企業庁の最後の置き土産の形で、千葉市に移管されることになる。街との連続性が欠けていたことからさびれがちだった幕張海浜公園海岸地区（D・Eブロック）の活性化も期待されている。この夏には、毎年ポートパーク（千葉市中央区の千葉港地区）で開催されてきた「千葉市民花火大会」も、今年は幕張の浜中心に開催されるとのこと。ベイタウン住民の散歩コース、ジョギングコースのレパトリーが拡がり、デッキの上からの冬の富士山や夏の夕陽の眺めが今から楽しみだ。【板東】



完成したシーサイドデッキ全景（マリンフォートの横山英昭さん撮影）



テープカットに臨む千葉市長他



一般参加者の皆さんも渡り初め



チーバくんや獅子舞も登場

ベイトウン・コア サークル物語 2 寺子屋工作ランド

3月号でざっくりご紹介した「公民館で活動しているサークル」の、今月は詳細編で、今回は「寺子屋工作ランド」です。【味噌聡太郎】

「寺子屋工作ランド」は2002年3月にコアがオープンした時から活動している歴史あるサークルです。代表の鎌田さんにお話を伺いました。

2002年に学校が週休二日制になったときに「土曜日の子供たちに何か活動の場を与えよう」との趣旨で始まりました。

普段の活動は毎月第4土曜日で、鎌田さん、小畑さんが担当しているそうです。江戸時代の寺子屋のイメージで、自由な雰囲気の子供たちが集まって勉強や遊びの場を用意することを目指しました。サークル発足当初は「子供たちの理科離れを防ごう」とパン作りなどの科学実験的なテーマもやってたけど、用意が大変で、現在は工作に落ち着いているとのこと。

毎回、平均すると25、6人、多いときは40人以上来て、定員オーバーで帰ってもらわなければならないこともあるほどの大人気です。時には公民館が開く前から入り口で並んで待っていることもあるそうです。対象は主に小学生、幼稚園生。ちなみに定員は寺子屋工作ランドで使っている工作室の広さによるものです。

1月から12月まで月毎に決まったテーマで開催していて、特別に人気のあるテーマは無い。7月、8月は子供たちが夏休みなので集まる人数は少なめ、ベイトウン祭りなどの大規模な行事と重なると、やはり、集まりが悪くなるそう。確実に参加するには、この辺りが狙い目かもしれません。

主だったテーマを紹介すると、
「竹とんぼ、紙とんぼ」：低学年は紙とんぼ、高学年は竹とんぼ。右利きと左利きで羽のひねりの向きを逆にするなど、なかなか奥が深そう。達人の小畑さんが造る竹とんぼはとても良く飛ぶそうです。
「マイ箸」：竹を削って箸を作る。お子さ

んと一緒に参加したお父さんやお母さん達が大人用として箸箸を作り、何年も愛用してくれているとのこと。

「ベンハムのコマ」(写真右上)：模様のついたコマを作ります。コマが回るととても不思議なことが起こります。(本当はここにご紹介したいけれど、ネタバレは鎌田さんに申し訳ないから、寺子屋工作ランドに参加してみてくださいね)。

「レインボースコープ」(写真右下)：万華鏡みたいな筒で不思議な光が見えます。「虹の七色」を一発で覚えられる、とても勉強になるお話が聞けます。

お話を伺っていて印象的だったのは、「怪我をしない小刀の使い方を身に着ける」とか、「ただ言われたとおりに作るだけでなく、自分の頭で考えて工夫してみよう」など、ただの工作では終わっていない奥の深さでした。

それから、小刀に限らず、どんな道具も使い方を間違えると怪我をするけど、正しく使えばめったに怪我をしないという、机の勉強では学べない生活の知恵を身に付けられる貴重な機会のように、ウチの子供たちも小学生の内に参加させてもらえば良かったと思いました。

月毎に同じテーマだから、2年続けて参加すると、同じテーマになりますが、そこを、「去年も作ったからもう飽きちゃったよ!」ではなくて、「去年よりももっと上手く作れるように工夫してごらん」と子供たちを促す鎌田さんと小畑さんは本当に良い「近所のおじいさん」で「良い人生の先生」のようです。

ちなみに参加費は50円で、主に子供たちが万が一怪我をしたときのための保険代(寺子屋工作ランドでの怪我はほとんどなく、行き帰りの交通事故の対策で損害保険

に入っています)に使っているそうです。

寺子屋工作ランドを主催する鎌田さんは82歳。お話を聞き始めたときは、淡々とした語り口でしたが、活動の内容をご紹介頂く内に段々と熱を帯びていき、若々しくなっていく感じでした。寺子屋工作ランドと、そこにあつまると子供たちへの熱い思いが伝わってきて、なんだか私まで元気になりました。

寺子屋工作ランドは毎月第4土曜日にコアで開催しています。(5月だけは第3土曜日)。小学生の皆さん、ぜひ参加してみてください!



ベンハムのコマ



レインボースコープ

先月号(4月号)でお伝えした公民館サークル紹介の図に誤りがあったので訂正します。読者とサークル主催者の方々にはご迷惑をおかけしました。
「ベイトウンフルートアンサンブル」が体育系の部類に入っていましたが、名前の通り楽器演奏のサークルなので、正しくは文化系の誤りです。
「混声コーラス GAFU」と「かな書道つくしの会」「一水会」「なつめの会」も体育会系ではなく、文化系の誤りでした。
それぞれのサークルの詳しい活動内容は公民館にお問い合わせください。またベイトウンニュースでは今後サークルの活動の様子をこの「サークル物語」コーナーで紹介していきます。楽しみにお待ち下さい。

5月27日(日) 第105回ファツィオリの会(コア文化振興基金後援事業)

日時: 5月27日(日) 9:30~11:30

場所: ベイトウン・コア 音楽ホール

フルコンサートピアノ「ファツィオリ」の演奏や他の楽器の演奏、声楽や合唱などに使って頂くことが出来ます。非公開でもご利用頂けますので、お気軽にお申し込み下さい。

定員になり次第締め切らせて頂きます。

聞きに来て頂くのは、自由です。

最新の情報は <http://www.baytown.ne.jp/core/> をご覧ください

申込締切 5月20日(日)

申込先 TEL & FAX 276-3878 ymogaki@k4.dion.ne.jp (大垣)

5月のコア・イベント

5月の「わくわくおはなし会」と「寺子屋工作ランド」はベイトウンまつり(5月19日(土))での開催になります。

寺子屋工作ランド

時間: 9:30~11:30

場所: ベイトウン・コア 工芸室、

持ってくるものはさみ えんぴつ 木工ボンド 保険費 50円

わくわくおはなし会

時間: 12:30~13:30

場所: ベイトウンまつり 屋外イベント広場

6月3日(日) 花時計 ふれんどり~コンサート

日時: 6月3日 13:30開場 14:00時開演

場所: ベイトウン・コア 音楽ホール

季節のうたを楽しく歌う会「花時計」発足10周年を記念するコンサートです。

昨年3月11日に被災されたみなさまへのエールを込めて歌います。たくさんのご来場をおまちしています。

お店紹介：45 Digital Con び ni (パティオス3番街)

今月はパティオス3番街の「45 Digital Con び ni 幕張パティオス3番街店」と店長の酒井雅弘さん

そんなお店あったかなと思った人もおいでだろう。

旧称は「写真屋さん 45 パティオス3番街店」だ。ベイタウンの中ではもっとも古参のひとつで、ベイタウンでの入居が始まった1995年から現在の場所で営業している。当時はフィルムカメラの最盛期で、出店後しばらくの間は運動会や成人式、七五三の度に店の前に写真の現像や記念撮影を申し込むための行列ができていた。

お店の名前にもなっている45分仕上げの高速現像を売りに、急激に店舗を拡張し、最盛期には700店舗以上あった同社は、現在、生き残りをかけた激動の中にある。そしてパティオス3番街店は千葉市で唯一の店舗になってしまった。一番近い店舗は西船橋店である。

ベイタウンニュースも創刊後しばらくフィルムカメラを使用していたので、フィルムの現像を同店にお願いしていたが、デジタルカメラの普及で現像が不要になってからは、年に一度の年賀状作成時以外は足が遠のいてしまった。

デジカメは街から写真屋さんを一掃してしまっただが、45デジタルコンビニも2003年頃から多角化に乗り出し、印刷業や看板制作事業に参入したことで、いまではこれらが同社の主力事業になっている。

住宅地域の中のパティオス3番街店の場合、さすがに印刷業や看板制作事業がメインではなく、写真のプリントから年賀状印刷まで多様なニーズがあるが、一昨年末で順調だった売り上げも、昨年の震災以降の落ち込みから回復できないでいる。

しかしお客の要望は多種多様で、フィルムの現像が少なくなったとはいえ、写真現像

の注文がなくなった訳ではなく、そのため、劣化が早く保存が難しい現像液の管理に気を使ったり、ベータビデオから8mmビデオを経てHDDビデオになるまでの多様なメディアで録画したものをDVDに保存したいなどの要望も多く、少量ながらも多様な注文に対応しなければならない難しさがあるという。

今回ご紹介する酒井店長は、以前パティオス3番街店で3年間勤務していたが、その後八千代台、四街道、蘇我、成田の店舗を経て5年前から再び店長としてパティオス3番街店で勤務している。

遅い時間にいつまでも店の奥で残業している姿を見かけるが、生真面目な性格ゆえか、顧客の要望や事情に少しでも早く確実に答えたいと願う気持ちが、おのずと残業になってしまうようだ。

元々は流通業界で働いていたが、趣味のカメラに係る仕事ができる今の会社に魅力を感じ転職した。職住近接という会社の方針で、千葉出身の酒井さんは、小中学生の頃に幕張新都心の建設現場を横目に見ながらハゼ釣りをしていた幕張の街で働くことになった。

実家は掛け軸や額を作ったり、襖〔ふすま〕や屏風〔びょうぶ〕を仕立てたりする職人である経師屋（表具師）であった。家業は継がなかったが、偶然とはいえ、時代の流れから看板も扱う会社で働いているので、「気が付いたら家業と同じような仕事をしている」と笑っていた。

パティオス3番街店の最近の傾向としては、ホームページ上やメールなど

での注文が増えていることがあげられる。ほかの地域と比べてもその割合は断トツだという。

最近受験の願書に貼る証明写真の注文が多く、固い表情になりがちな証明写真に対して、自然な表情にこだわる会社の方針もあるせいか、証明写真のできに満足してその後リピーターになってくれる人が多いそうだ。

証明写真では真面目な表情をするものと思っていたが、酒井店長は写真を見た人に良い印象を与えられる、笑った顔が一番だと思うと話してくれた。

インタビューの最後に、今後どのような事をやりたいかと質問してみた。それに対して酒井店長は、長引く不況で何事もなかなか前向きに進まない現実はあるが、今後も3番街店が街の人々の役に立てるような仕事をしたいと呟いた。

誠実な人柄がにじみ出るようなインタビューであった。

でも酒井さん、仕事も大事ですが、家で待っている10歳になったばかりの娘さんの為にも早く帰るようにして下さいね。お父さんの相手をしてくれるのも今のうちですよ（経験者談）。【金】



ベイタウンの「はたらくくるま」

用地指定や景観の問題で難航した打瀬1丁目公園横にできる「H7街区」の建設工事はじまった。ベランダからはこの建設現場がよく見える。実は我が家はH7街区の完成で19階建ての壁ができてしまい、眺望が台無しになってしまう。複雑な気持ちで毎日工事の様子を見ていたのだが、最近になって現場にいるんな珍しい重機が入り始めた。パワーショベルやダンプカー、そして珍しい杭打ち機もある。小さい子どもが好きな「はたらくくるま」だ。

はたらく車はとくに男の子にとってはあこがれの的のようだ。小さい子どもを持つお父さんの中には、タンクローリーやパワーショベルを求めて工事現場を見に行ったり、路上で大型車をみつけては追っかけたりしている方も多いだろう。そんな憧れの「はたらく車」が何種類も動く様子

の工事現場で一望できる。写真は家のベランダからのものだが、工事現場に隣接する1丁目公園には小高い丘があり、そこからも車の様子はよく見える。小さい子どもをお持ちの方。5月の新緑の頃ははたらく車の観察にお弁当をもって出かけてみては？



超大型の杭打ち機。ここには一時4台もの杭打ち機が一度に動いていた。



おなじみのダンプカーもここでは一度に何台も見られる（写真上）。写真下はパワーショベル。